

(様式1)

令和5年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県立山カルデラ砂防博物館 砂防課

2 施設所在地
中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

3 施設設置年度
平成10 年度

4 設置目的
常願寺川の源流部にある火山活動と侵食作用によって形成された立山カルデラの峻巖な自然及び県土の保全のため行われてきた砂防事業を紹介し、災害を克服してきた人間の努力と英知について県民の理解を深めることを目的とする。

5 施設概要
延床面積 2,217.42㎡ 建築面積 1,984.6㎡
主な施設
エントランスホール 約250㎡
立山カルデラ展示室 約468㎡
大型映像ホール 約213㎡
企画展示室 約60㎡
図書室 約83㎡

6 指定管理者
公益財団法人立山カルデラ砂防博物館

7 指定期間
3 年
令和6年4月1日 ~ 令和9年3月31日

8 利用者数及び利用(使用)料金収入の状況

(1) 利用者数 (人)

R1	R2	R3	R4	R5
52,075	18,191	18,480	25,832	27,861

(2) 利用(使用)料金収入 (千円)

R1	R2	R3	R4	R5
1,232	677	678	961	934

【参考】 利用料金収入見込み額 (利用料金制導入施設の場合)

R1	R2	R3	R4	R5
—	—	—	—	—

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数・収入の確保のため、学校・観光業者・町等、関係機関と連携を図るとともに、マスコミ等への情報提供を行うなど、積極的に施設及び事業のPRを実施している。

入館者数は、立山黒部アルペンルートにおける台湾や中国などを中心とした外国人観光客の増加と連動して平成27年度より増加傾向であったが、令和2年度以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に減少した。ただし、令和3年度以降は徐々に回復している。

収入は、平成28年度より県内の文化施設について、高齢者(70歳以上)、大学生や多子世帯に対し利用料が減免されるようになったことなどから、大きく減少した。ただし、令和3年度以降は徐々に回復している。

(2) サービス向上に向けた取組み

① 開館時間の拡大(通常9時30分開館)

GW、夏季(夏休み)期間は8時30分、秋の行楽シーズンは9時としている。

② 休館日の返上(通常休館日)

GW、夏休み期間は休館日を設けず、開館した。

③ 移動博物館

積極的に館外へ出向き、講座等を通して、博物館のPRを行い、来館者の拡大を図っている。

④ 展示室等の多言語対応

外国人観光客の増加に対応するため、平成28年度から映像ホールにおける3D映像の外国語音声レシーバーの貸出しや、常設展示室の外国語解説タブレットの貸出しを行っている。また令和5年度より日本語字幕付の映像上映も可能となった。

⑤ 閑散期(12～3月)対策

平成30年度から、「博物館講座(はじめてのぶらかんじき)」を開催している。

⑥ サテライト展示

令和4年度から、富山県防災危機管理センターにて展示を行っている。

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

- ・開館時間の拡大、休館日の臨時開館
- ・学芸課職員の学術研究の成果発表
- ・博物館ホームページやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)による情報発信
- ・繁忙期に解説ボランティア(友の会・解説部会)による館内解説の実施
- ・立山駅やロータリーでの誘導看板設置

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

①アンケート結果

実施方法	実施期間：令和5年9月1日～11月5日 アンケート記入場所設置
回答者数	回答者数：286人
結果	満足：常設展示90%、企画展示81%、映像83%
結果を踏まえた改善事項	映像の音響に関して、聞こえづらい等の意見が多くあった。音響を含む映像システムが経年劣化により故障したため、県への要望を続けるとともに修繕できる範囲で対応していく。

②その他利用者の声を反映させる取組み

- ・博物館運営委員会の開催
- ・受付監視を行っているミュージアムガイドへの聞き取り

③主な苦情と対応

特になし

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報保護規程を定めて職員に周知を図り、適正に個人情報を取り扱っている。

(6) 関係団体との連携

地元宿泊施設や地元鉄道会社、立山町と協力し、事業のPRを積極的に行っている。

(7) 施設・設備の維持管理

専門保守業者による保守点検とは別に、職員による自主点検を毎月行うなど、適正に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

「立山カルデラ砂防体験学習会」安全対策会議を開催し、安全対策及び緊急事態発生時の対応について関係機関との連携を行う等、非常時のマニュアルや連絡表を作成するとともに、防災訓練の実施や各種機器の点検なども着実に実施されている。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	10
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

無

11 今後の課題等（収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載）

近年、立山を訪れる外国人観光客の増加が顕著に見られるため、平成28年度から3D映像の外国語音声レシーバー及び常設展示室の外国語解説タブレットの貸し出しを行っている。加えて、平成30年度からは立山駅に誘導看板（外国語表記付）を設置した。引き続き外国人観光客の対応の充実、満足度の高いサービスの提供に努める必要がある。

また、リピーターが少ないことから、来館者のニーズ（満足度を上げるために何が必要か）をより詳細に把握・分析するとともに、閑散期の来館者増加も課題である。野外講座「はじめてのぶらかんじき」継続して実施しているが、今後とも広報活動（特にSNSを利用した情報発信）、イベント等の実施検討等に努める必要がある。

アフターコロナ時代の博物館のあり方を模索しながら、開館30周年に向け、サービス提供の充実や館に直接足を運んでもらうための工夫が必要である。県防災危機管理センターのサテライト展示を有効活用するほか、友の会解説部会との連携を強化し、有料ゾーンへの入館者に付加価値をつける努力をしてもらいたい。

今後とも、経費削減を念頭に業務内容を再点検するとともに、来館者や関係団体からの意見を反映させ、利用者の満足度が高まるよう努めてもらいたい。